

障害者雇用の在り方探る

事業主・専門家ら意見交換

土佐清水市

【清水】障害者雇用 高知県立大学看護学部 市内の水産加工会社が
を考える研修会がこの 教授の畦地博子さん 事業主を代表して意見
ほど、土佐清水市天神 (56)が講演。障害者の 発表。得意な分野に注
町の中央公民館で開か 離職について、「職場の 目して仕事を任せ、周
れ、約20人が課題や事 雰囲気や人間関係、賃 困の従業員も気付いた
業主・当事者の意見に 金・労働条件が合わな ことを会社に言える環
耳を傾けた。 い」などの理由は障害 境があることを報告し
NPO法人「ふくし 者だけでなく、一般的 た。当事者の男性は
ねっとコココ」で な離職理由にも上がる 「苦手なこともやって
す」(同市浜町)の主 と指摘。「職場の改善点 いくうちにうまくなる
催。同法人は2019 に最初に気付いてくれ ので楽しい」と話し
年度から、障害者が るのが障害者の方」と た。
「親」き後」に安心し し、「一緒に職場づくり 大人になって発達障
て暮らせるように地域 ができるなら、私たち 害と診断された30代の
全体で支える体制を整 とつても働きやすい環 男性も体験を発表。複
備する「地域生活支援 境が見えてくる」と話 数の仕事を同時進行さ
拠点等整備事業」を市 した。 せることが苦手で、予
から受託している。 会では、発達障害の 定が急に変わったたりす
26日の研修会では、 ある20代の男性を雇う ると胸が苦しくなるこ
とも。「自分に能力が足
りないと思っていた」
と打ち明け、「発達障害
の診断を受けた時はほ
っとした」と振り返っ
た。診断を受けて「自
分の周りを自分がやり
やすいように変えれば
いいと思うようになった」と報告した。



障害者雇用の現状などを話す畦地博子さん

(土佐清水市の中央公民館)

予定。(山崎彩加)